

## 別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 中国電力株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒730-8701 広島県広島市中区小町4-33	
本票作成	部署名：環境部門（地球環境担当）				
主たる業種	分類コード	33	業種名：電気業		
事業の概要	事業内容：電気事業 従業員数：1,575人（平成26年3月末現在）				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	玉島発電所		倉敷市玉島乙島字新湊8253番2	
	②	水島発電所		倉敷市潮通1丁目1番地	
	③	岡山支社		岡山市北区内山下1丁目11番1号うちさんげ電気ビル内	
	④	岡山計算センター		岡山市北区津倉町2丁目2番2号	
	⑤	岡山電力所		岡山市南区福成3丁目4番11号	
⑥	倉敷営業所		倉敷市中庄2293番地の2		
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input checked="" type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数 35 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 24 年度)	(平成 25 )年度排出量	目標年度(平成 29 年度)
	328,000 t CO <sub>2</sub>	319,000 t CO <sub>2</sub>	324,000 t CO <sub>2</sub>

主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 25 )年度排出量
	①	玉島発電所	190,000 t CO <sub>2</sub>
	②	水島発電所	115,000 t CO <sub>2</sub>
	③	岡山支社	2,070 t CO <sub>2</sub>
	④	岡山計算センター	2,140 t CO <sub>2</sub>
	⑤	岡山電力所	1,240 t CO <sub>2</sub>
⑥	倉敷営業所	1,390 t CO <sub>2</sub>	

削減目標の達成状況	計画期間：平成 25 年度 ～ 平成 29 年度 ( 5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	( 25 )年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	2.6 %	4.9 %	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 販売電力量 (岡山県)	原単位当たり排出量		
		基準年度	( 25 )年度	目標年度
		0.0192 kg CO <sub>2</sub> /( kWh )	0.0187 kgCO <sub>2</sub> /( kWh )	0.0183 kgCO <sub>2</sub> /( kWh )

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 25 年度)	達成率等
指標の状況	電力供給業	100.3% 以上	99.5%	99.2%

## 【削減状況の自己評価】

- ・基準年度（平成24年度）と比較し、電力のCO<sub>2</sub>排出原単位悪化に伴う温室効果ガスの増加要因はあったものの、水力および新エネルギーによる発電電力量の増加により玉島発電所の発電電力量が減少し、それに伴い所内の消費電力量が減少したことで、温室効果ガス排出量は減少した。
- ・その結果、原単位当たりの排出量は、基準年度比で2.6%減少した。

**【推進体制】**

- ・社長が環境管理の最高責任者として全社の環境管理を統括し、環境部門長が全社環境管理推進者として運用管理を実施。
- ・各事業所等では、事業所等の長が環境管理を統括し、環境管理推進者（副所長クラス）が中心となって環境管理活動を推進。
- ・環境管理活動は、全社的な環境管理の仕組みを定めた「環境管理規程」および「環境管理取扱細則」に基づいて、各事業所において着実に実践。

**【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】**

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
(平成25年度実施分) 玉島発電所	(平成25年度実施分) ・玉島発電所1号機は、石油を燃料とする火力発電所であるが、優れた環境特性をもつLNGも利用可能とするため、ボイラと一部設備の改造を行った。（営業運転開始：平成26年4月）
全社	・「エコ・オフィス活動」の実践等により、オフィスでの延床面積あたりの電気使用量を、対前年度比で2.0%低減した。  ・電気自動車を平成25年度までに143台（プラグインハイブリッド車を含む）導入した。
(今後実施予定分) 全社	(今後実施予定分) ・安全確保(Safety)を大前提とした、安定供給(Energy Security)、経済性(Economic Efficiency)、環境への適合(Environment)の3つのEの同時達成を目指す「S+3E」の観点から、バランスのとれた電源構成の実現を目指しつつ、電気の供給面・使用面での取り組み等により、引き続きCO2の排出削減に努める。  ・改正省エネ法の趣旨を踏まえ、「オフィスでの延床面積あたりの電気使用量の年1%程度低減」を環境管理目標に掲げ、目標達成に向けて引き続き取り組む。  ・電気自動車の一般普及を図るため、平成32年(2020年)度までに累計700台導入を目指す。

**【森林保全等吸収源対策への取組】**

県内での取組	有	吉井川・高梁川の上流に、水源かん養りんを保有し、枝打ちや間伐など適切な維持管理をしている。
その他	有	広島県の太田川の上流に、水源かん養りんを保有し、枝打ちや間伐など適切な維持管理をしている。

**【再生可能エネルギーの導入】**

県内での取組	無	
その他	有	当社初のメガソーラーとなる福山太陽光発電所（3,000kW）は、2011年12月に営業運転を開始し、2013年度の発電電力量は453.5万kWhとなった。また、2014年12月の営業運転開始に向けて、山口県宇部市において2カ所目の建設に取り組んでいる。

**【その他特記事項】**

- ・供給安定性・経済性に優れる石炭火力を将来にわたって活用していくため、「高効率化」と「クリーン化」に資する技術として、CO2を大幅に削減する石炭ガス化燃料電池複合発電（IGFC）を目指し、その基盤技術である酸素吹石炭ガス化複合発電（酸素吹IGCC）の実証試験設備の建設に2013年3月から着工しており、2017年3月の実証実験に向けて取り組んでいる。
- ・地球温暖化防止に向けて、民生部門の取り組みがますます重要になっていることを踏まえ、「エコ・オフィス実践行動プラン」・「エコ・ライフ実践行動プラン」により、日常業務・生活に密着した省エネルギー、省資源・リサイクル活動をエネルギーグループ全体で展開している。
- ・CM放送やホームページで省エネ・節電PRを実施しており、最新の省エネ家電に関する情報や省エネ・節電の手法・アイデアを紹介している。